平成24年12月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年５月14日

上 場 会 社 名	株式会社セルシード			上場取引所	大
コ ー ド 番 号	7776		URL	http://www.cellseed.com	
代　　表　　者	(役職名)	代表取締役社長	(氏名)	長谷川　幸雄	
問合せ先責任者	(役職名)	取締役最高財務責任者 管理部門長	(氏名)	細野　恭史	(TEL) 03-5286-6231
四半期報告書提出予定日		平成24年５月15日	配当支払開始予定日		―

四半期決算補足説明資料作成の有無　　：有
四半期決算説明会開催の有無　　：無

(百万円未満切捨て)

１．平成24年12月期第１四半期の連結業績（平成24年１月１日～平成24年３月31日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第１四半期	21	△22.9	△333	―	△332	―	△333	―
23年12月期第１四半期	28	74.6	△304	―	△303	―	△311	―

(注) 包括利益　24年12月期第１四半期　　△304百万円(　　－%)　23年12月期第１四半期　　△298百万円(　　－%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第１四半期	△61.20	―
23年12月期第１四半期	△58.57	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第１四半期	564	230	40.2
23年12月期	743	534	71.5

(参考) 自己資本　24年12月期第１四半期　　227百万円　　23年12月期　　531百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	―	0.00	―	0.00	0.00
24年12月期	―				
24年12月期(予想)		0.00	―	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：　無

３．平成24年12月期の連結業績予想（平成24年１月１日～平成24年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、第２四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期(累計)	145	235.0	△695	―	△665	―	△670	―	△123.02
通期	205	138.0	△1,545	―	△1,520	―	△1,525	―	△280.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：　無

４．その他

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年12月期１Ｑ	5,446,240株	23年12月期	5,446,240株
②　期末自己株式数	24年12月期１Ｑ	66株	23年12月期	66株
③　期中平均株式数（四半期累計）	24年12月期１Ｑ	5,446,174株	23年12月期１Ｑ	5,324,934株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外でありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ２「連結経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(1) 連結経営成績に関する定性的情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
① 再生医療支援事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
② 細胞シート再生医療事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
① 資産、負債及び純資産の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２．サマリー情報（その他）に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
(4) 追加情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

４．四半期連結財務諸表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

(1) 四半期連結貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書・・・・・・・・・・・・・・・ 7
四半期連結損益計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
四半期連結包括利益計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
(3) 継続企業の前提に関する注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
(4) セグメント情報等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記・・・・・・・・・・・・・・・・・12
(6) 重要な後発事象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

１． 当四半期決算に関する定性的情報

(1)連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、穏やかに持ち直しに向けた動きもみられますが、全体としてはなお横ばいの状況が続いております。

当社グループを取り巻く先端医療・再生医療分野におきましては、内閣府主催の第２回、第３回スーパー特区シンポジウム「細胞シートによる再生医療実現プロジェクト」が開催されて細胞シートによる研究成果などが発表されました。また、ES細胞（ヒト胚性幹細胞）、iPS細胞（人工多能性幹細胞）を使ったさまざまな研究成果が発表されるなか、米国におけるES細胞を用いた再生医療の臨床試験で「黄斑変性」（スタルガルト病）や「加齢黄斑変性」で視力が改善したという成果が発表されたり、京都大学においてES細胞から作製した神経細胞を「パーキンソン病」のサルに移植し治療効果を確認した等の発表がありました。また、厚生労働省は、iPS細胞など日本での先端的な医療研究を速やかに実用化するための予算の手当てや手続・規制の緩和を進める趣旨の発表を行いました。

以上のような環境の下、当社グループは、引き続き再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業の双方で精力的な活動を推進いたしました。両事業における先行投資を主因として、当第１四半期連結累計期間における売上高は21,808千円（前年同四半期比6,494千円の減少）、営業損失は333,379千円（前年同四半期比28,538千円の増加）、経常損失は332,238千円（前年同四半期比28,396千円の増加）、四半期純損失は333,290千円（前年同四半期比21,397千円の増加）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①再生医療支援事業

再生医療支援事業では、最終顧客である大学や研究機関を販売代理店とともに積極的に訪問し、認知度向上・販売促進活動に取り組みました。

以上のような活動の結果、売上高は21,808千円（前年同四半期比6,494千円の減少）、営業損失は6,777千円（前年同四半期比1,660千円の増加）となりました。

②細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、欧州における角膜再生上皮シートの事業化準備を中心として５つの細胞シート再生医療医薬品パイプラインの研究開発を推進しております。

欧州における角膜再生上皮シートの事業化準備に関しては、平成23年６月に欧州医薬品庁（EMA）宛に提出した角膜再生上皮シート販売承認申請に関する薬事審査への対応を行いました。また、米国Emmaus Medical Inc.との間で「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年４月８日締結）に基づく角膜再生上皮シート関連研究成果及び技術・ノウハウの開示・移転を概ね終了いたしました。

以上のような活動の結果、営業損失は210,661千円（前年同四半期比34,718千円の増加）となりました。（当該事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。）

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第１四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて178,288千円減少し、538,272千円となりました。これは主に、前払費用が50,981千円増加し、現金及び預金が133,606千円、有価証券が90,808千円それぞれ減少したことなどによります。

当第１四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べて753千円減少し、25,967千円となりました。これは主に、敷金の回収などにより投資その他の資産が753千円減少したことによります。

この結果、当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて179,042千円減少し、564,240千円となりました。

(負債)

当第１四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて125,103千円増加し、317,028千円となりました。これは主に、賞与引当金が26,404千円、前受金が106,348千円それぞれ増加し、未払法人税等が7,174千円減少したことなどによります。

当第１四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末と変わらず16,984千円となりました。

この結果、当第１四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて125,103千円増加し、334,013千円となりました。

(純資産)

当第１四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて304,145千円減少し、230,227千円となりました。これは主に、四半期純損失333,290千円を計上したことなどによります。

(3)連結業績予想に関する定性的情報

第２四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成24年２月14日発表の業績予想から変更はありません。

２． サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

当第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号　平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号　平成21年12月４日）を適用しております。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上してきておりますが、前連結会計年度の営業キャッシュ・フローは1,274,380千円のマイナスであり、前連結会計年度末の手元資金（現金及び現金同等物）残高601,136千円は想定される営業キャッシュ・フローのマイナス額に比して著しく少ない金額となっております。当該状況により、前連結会計年度末において、当社グループに継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。当第１四半期連結会計期間におきましては米国Emmaus Medical Inc.（以下「エマウス社」という）より「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年４月８日締結）に係る契約一時金150万米ドルを受領するなどの進展があったものの、当第１四半期連結会計期間末の手元資金（現金及び現金同等物）は376,721千円となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が依然存在しております。当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き下記の施策に取り組んでおります。

① エマウス社との間で平成23年４月８日に締結した「共同研究開発基本契約」にかかる契約一時金850万米ドルの受領

当社グループは、エマウス社との間で「共同研究開発基本契約」、「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」の２種類の契約書を締結しております。当第１四半期連結会計期間に「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」に係る契約一時金150万米ドルを受領いたしました。また、「共同研究開発基本契約」に係る契約一時金850万米ドルについては、当連結会計年度中に受領をする予定となっております。

② 平成23年10月４日に発行した第４回乃至第８回新株予約権を通じた資金調達

当社グループは、平成23年10月４日に野村証券株式会社宛に第４回乃至第８回新株予約権を発行いたしました。当該の新株予約権につきましては、平成23年11月に100,000千円の行使があり、同額の資金を調達した実績があります。未行使の新株予約権につきましても、行使の促進を行うべく現在準備を進めております。なお、平成24年４月27日には第４回及び第５回新株予約権の権利行使がなされ、200,000千円の資金を調達しております。詳細については、「４．四半期連結財務諸表（6）重要な後発事象」をご覧ください。

③ 全社的な支出計画の見直し

当社グループは、必要資金が確保できるまでの間支出を最小限に留める経費計画を策定して、その運用を開始しております。当該経費計画においては、欧州角膜再生上皮シートを中心とした重要な研究開発に資源を集中することとしております。

④　上記①・②・③以外の資金調達交渉

当社グループは、資金調達を目的として複数の相手方と守秘義務契約を締結して交渉を進めておりますが、当第１四半期連結会計期間末までに具体化したものはございませんでした。当社グループは、上述の施策の状況を勘案しつつ、必要資金の確保を目指した活動を推進していきたいと考えております。

当社グループは、上記の各施策を確実に実行することによって継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を解消又は改善することも可能であると考えておりますが、いずれも現時点で未確定な部分があり、従って継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在していると判断しております。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

４．四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第１四半期連結会計期間 (平成24年３月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	510,327	376,721
売掛金	11,474	14,195
有価証券	90,808	―
商品及び製品	10,970	10,930
仕掛品	2,767	3,516
原材料	758	727
前払費用	54,389	105,370
その他	35,063	26,811
流動資産合計	716,561	538,272
固定資産		
投資その他の資産	26,721	25,967
固定資産合計	26,721	25,967
資産合計	743,282	564,240
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,267	2,331
未払金	94,756	94,180
未払法人税等	11,762	4,587
賞与引当金	―	26,404
前受金	48,801	155,150
その他	35,337	34,373
流動負債合計	191,925	317,028
固定負債		
長期前受金	16,984	16,984
固定負債合計	16,984	16,984
負債合計	208,910	334,013
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,198,225	3,198,225
資本剰余金	3,178,225	3,178,225
利益剰余金	△5,791,139	△6,124,430
自己株式	△47	△47
株主資本合計	585,263	251,973
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△54,015	△24,870
その他の包括利益累計額合計	△54,015	△24,870
新株予約権	3,124	3,124
純資産合計	534,372	230,227
負債純資産合計	743,282	564,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年１月１日 至 平成23年３月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年１月１日 至 平成24年３月31日）
売上高	28,303	21,808
売上原価	19,294	14,004
売上総利益	9,009	7,804
販売費及び一般管理費		
研究開発費	175,280	191,701
その他	138,570	149,481
販売費及び一般管理費合計	313,850	341,183
営業損失（△）	△304,841	△333,379
営業外収益		
受取利息	335	21
補助金収入	800	13,220
保険配当金	481	－
その他	527	593
営業外収益合計	2,144	13,834
営業外費用		
為替差損	1,144	12,560
その他	0	132
営業外費用合計	1,144	12,693
経常損失（△）	△303,841	△332,238
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,980	－
その他	18	－
特別損失合計	6,999	－
税金等調整前四半期純損失（△）	△310,840	△332,238
法人税、住民税及び事業税	1,052	1,052
法人税等合計	1,052	1,052
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△311,892	△333,290
四半期純損失（△）	△311,892	△333,290

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成23年１月１日 至　平成23年３月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成24年１月１日 至　平成24年３月31日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△311,892	△333,290
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	13,652	29,145
その他の包括利益合計	13,652	29,145
四半期包括利益	△298,240	△304,145
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△298,240	△304,145
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第１四半期連結累計期間（自　平成24年１月１日　至　平成24年３月31日）

当社グループは、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上してきておりますが、前連結会計年度の営業キャッシュ・フローは1,274,380千円のマイナスであり、前連結会計年度末の手元資金（現金及び現金同等物）残高601,136千円は想定される営業キャッシュ・フローのマイナス額に比して著しく少ない金額となっております。当該状況により、前連結会計年度末において、当社グループに継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。当第１四半期連結会計期間におきましては米国Emmaus Medical Inc.（以下「エマウス社」という）より「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年４月８日締結）に係る契約一時金150万米ドルを受領するなどの進展があったものの、当第１四半期連結会計期間末の手元資金（現金及び現金同等物）は376,721千円となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が依然存在しております。当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き下記の施策に取り組んでおります。

①　エマウス社との間で平成23年４月８日に締結した「共同研究開発基本契約」にかかる契約一時金850万米ドルの受領

当社グループは、エマウス社との間で「共同研究開発基本契約」、「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」の２種類の契約書を締結しております。当第１四半期連結会計期間に「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」に係る契約一時金150万米ドルを受領いたしました。また、「共同研究開発基本契約」に係る契約一時金850万米ドルについては、当連結会計年度中に受領をする予定となっております。

②　平成23年10月４日に発行した第４回乃至第８回新株予約権を通じた資金調達

当社グループは、平成23年10月４日に野村証券株式会社宛に第４回乃至第８回新株予約権を発行いたしました。当該の新株予約権につきましては、平成23年11月に100,000千円の行使があり、同額の資金を調達した実績があります。未行使の新株予約権につきましても、行使の促進を行うべく現在準備を進めております。なお、平成24年４月27日には第４回及び第５回新株予約権の権利行使がなされ、200,000千円の資金を調達しております。詳細については、「４．四半期連結財務諸表（6）重要な後発事象」をご覧ください。

③　全社的な支出計画の見直し

当社グループは、必要資金が確保できるまでの間支出を最小限に留める経費計画を策定して、その運用を開始しております。当該経費計画においては、欧州角膜再生上皮シートを中心とした重要な研究開発に資源を集中することとしております。

④　上記①・②・③以外の資金調達交渉

当社グループは、資金調達を目的として複数の相手方と守秘義務契約を締結して交渉を進めておりますが、当第１四半期連結会計期間末までに具体化したものはございませんでした。当社グループは、上述の施策の状況を勘案しつつ、必要資金の確保を目指した活動を推進していきたいと考えております。

当社グループは、上記の各施策を確実に実行することによって継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を解消又は改善することも可能であると考えておりますが、いずれも現時点で未確定な部分があり、従って継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在していると判断しております。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(4)セグメント情報等

【セグメント情報】

Ⅰ 前第１四半期連結累計期間（自 平成23年１月１日 至 平成23年３月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント(注)１			調整額(注)２	四半期連結損益計算書計上額(注)３
	再生医療支援事業	細胞シート再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	28,303	－	28,303	－	28,303
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	28,303	－	28,303	－	28,303
セグメント損失（△）	△5,117	△175,942	△181,060	△123,780	△304,841

（注）１ 再生医療支援事業は既に製品を販売して売上高を計上しておりますが、細胞シート再生医療事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。

２ セグメント損失の調整額△123,780千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

３ セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第１四半期連結累計期間（自 平成24年１月１日 至 平成24年３月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント(注)１			調整額(注)２	四半期連結損益計算書計上額(注)３
	再生医療支援事業	細胞シート再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,808	－	21,808	－	21,808
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	21,808	－	21,808	－	21,808
セグメント損失（△）	△6,777	△210,661	△217,439	△115,940	△333,379

（注）１ 再生医療支援事業は既に製品を販売して売上高を計上しておりますが、細胞シート再生医療事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。

２ セグメント損失の調整額△115,940千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

３ セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第１四半期連結累計期間（自平成24年１月１日至平成24年３月31日）

該当事項はありません。

(6)重要な後発事象

当第１四半期連結会計期間

（自　平成24年１月１日　至　平成24年３月31日）

新株予約権の行使による増資

当四半期連結会計期間終了後、平成23年10月４日に発行した第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権について、平成24年４月27日に第４回及び第５回新株予約権の行使がありました。当該新株予約権の権利行使の概要は次のとおりであります。

回号	①発行する株式の種類及び数	②発行価額	③発行価額の総額	④資本金及び資本準備金の増加額	⑤払込み期日
第４回	普通株式 116,157株	860.9円	100,000千円	資本金 50,173千円 資本準備金 50,173千円	平成24年 ４月27日
第５回	普通株式 116,157株	860.9円	100,000千円	資本金 50,173千円 資本準備金 50,173千円	平成24年 ４月27日
計	普通株式 232,314株	―	200,000千円	資本金 100,347千円 資本準備金 100,347千円	―

⑥資金の使途

細胞シート再生医療事業及び再生医療支援事業の研究開発資金、欧米を中心とした細胞シート再生医療事業の立ち上げ及び当社グループ事業の世界展開体制構築へ向けた必要な人材の採用・育成などに必要となる運転資金

上記新株予約権の行使により、平成24年４月27日現在の普通株式の発行済株式総数は5,678,554株、資本金は3,298,572千円、資本準備金は3,278,572千円となりました。